（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年４月 28 日

県立白山高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎礎学力の定着を図る「学び直しから」、自ら考え判断し表現する力までを育み、普通科と美術科が相互に刺激し高め合う教育課程を編成、実施する。 ②「育みたい生徒像」を実現し、個に応じた学力を育成するための ICT 活用を進め、組織的な授業改善を行う。 ③学校行事等をとおして協働する力を育む。	①確かな学力の定着と教育の「質」を高める授業改善を進める。 ②一人一台端末に対応した授業方法を発展させる。 ②図書館の利用を促し、生徒の読書活動を推進する。 ③体育祭、文化祭、球技大会、生徒総会等の各行事について、生徒が主体的に企画運営できるように支援する。また、生徒が積極的に参加できるようにつとめる。	①評価と指導の一体化を意識した授業を行う。 ②研修会などＩＣＴ環境の利用に関する情報発信を行う。 ②図書館と教科の連絡を密にし、生徒が活字に親しむ機会を増やす。 ③生徒会本部役員や各種委員会の生徒と積極的にコミュニケーションをとり、生徒の発想をくんだ行事の企画運営を行う。	①単元ごとの評価を円滑に行えたか。 ②端末を効果的に利用した学習活動を行えたか。 ②図書館の利用機会が増加したか。 ③生徒会本部や委員会において生徒全体のニーズや要望に応えた活動ができたか。また、活動を通じて生徒自身が達成感を感じることができたか。 ③学校行事への参加率や生徒の達成感、満足感を高めることができたか。					
2	生徒指導・支援	①他者を認める寛容の精神と自らを律することができる自己管理力を育てる。 ②生徒一人ひとりの課題に対するきめ細かな教育相談体制を充実・発展させる。 ③部活動やボランティア活動等をとおして豊かな人間性や社会性を育てる。	①ルール・マナー指導を徹底し、すべての生徒が充実した生活を送れる安全、安心な学校づくりを推進する。 ②生徒一人ひとりに寄り添う組織的な生徒支援と教育相談体制の充実、発展を図る。 ③部活動への関心を高め、加入率の向上および部活動の活性化を図る。 ③部活動・ボランティア活動をとおして、充実した学校生活を感じ、ボランティア精神、モラルを大切にする生徒を育成する。	①問題行動の未然防止、いじめ未然防止と早期発見、「白山高校ソーシャルメディアポリシー」に基づく SNS 等に関する指導を徹底する。 ①服装、頭髪などのルール、授業中、登下校時のマナー(遅刻指導を含む)に関する指導を充実する。 ②多角的に生徒情報を収集、共有し、適切な問題把握と対策を検討する。また、必要に応じて外部専門機関と効果的に連携する。 ③部活動参加のための勧誘・広報活動等を充実させ、新入生の部活動への興味関心を高め、加入率高める。 ③学校や近隣地域などのボランティア活動や部活動等でのボランティアを紹介・支援し自発的な参加を促す。	①問題行動の減少と軽微化がはかれたか。 ①生徒が自らルール・マナーを遵守して行動する自己管理力を身につけたか。 ②支援を必要とする生徒の正確な把握とそれに対する適切な支援を策定することができたか。 ②適切に外部専門機関を活用することができたか。 ③部活動加入率や満足度は向上したか。 ③ボアランティア活動を行う機会を増やすことができたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①「夢・目標　ここで未来を見つけよう」をスローガンに、高い志を持って目標に向かい努力することによって自己実現を図る。 ②美術科の専門性を生かした進路実現を支援する。	①総合的な探究 の時間を有効に活用し、生徒の主体的な活動を促す。 ①アセスメントテスト（基礎力診断テスト）の結果を活用し、自己有用感の発達を促す。 ①②進路実現に向けた前向きな態度を養う。	①総合的な探究の時間を有効に生かせるようアップデートする。 ①進路適性テストを活用し、自己の能力・適性等の理解を深める。 ②個々の特性や専門性をふまえ、インターンシップ等の体験活動を有効活用する。	①総合的な探究の時間の授業評価や進路選択が円滑に行えたか。 ②インターンシップ等の体験活動に積極的に参加するなど、進路実現に向けた前向きな取組ができたか。					
4	地域等との協働	①地域と共にある学校づくりを行い、広い視野を持ち、地域に貢献することによって自己有用感を育む活動を充実させる。 ②地域やＰＴＡ等との連携を図り安心・安全で信頼される学校づくりに取り組む。	①地域の清掃活動に取り組み、地域に貢献する姿勢と、貢献活動を通じた自己有用感を育む。 ②地域やＰＴＡと連携し、交通の安全と、防災意識を醸成する活動に取り組む。	①地域貢献デーなどの機会を通じて、清掃活動に取り組む。 ②地域やＰＴＡと連携し、交通の安全や、防災意識を高める活動に取り組む。	①清掃活動を通じた地域貢献が実施できたか。 ② 地 域 や Ｐ Ｔ Ａと連携した交通安全教育や防災教育が実施できたか。					
5	学校管理 学校運営	①教員が多様で複雑な生徒の課題に寄り添い向き合う時間を確保するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ②在校生や中学生、保護者や地域に向けた情報発信を充実させる。 ③事故・不祥事の根絶を図る。	①ICT 機器を活用し、効率的な校務の推進ができるよう環境整備を図る。 ①次年度始まる、インクルーシブ教育に向けて、校務の推進ができるよう環境整備を図る ②時宜にかなう情報発信を行うとともに、保護者、生徒に分かりやすい説明会の運営を行う。 ③事故・不祥事防止について教職員の意識を高める。	①ICT 機器を活用し、効率的な教材開発や教科研究に努めるよう体制づくりをする。 ①ＨＲやその他の教室や教育環境の整備を行い、インクルーシブ教育の次年度実施に向けての体制づくりをする。 ②ＨＰやメール配信を通じて、時宜にかなった情報発信を行うとともに、保護者、生徒の目線に立った運営を行う。 ③体罰やハラスメント等の根絶に向けた研修を実施する。	①教材開発と教科の研修の視点から効率的な校務推進の体制作りができたか。 ①実施に向けて教室や教育環境の整備が十分に整備できたか。 ②情報の発信は時宜にかなったものであったか。保護者や生徒の目線で運営がなされていたか。 ③事故・不祥事に対する教職員の意識が高まり、事故・不祥事ゼロを達成できたか。					